特251
949

男爵井上清純閣下講述

明朗會講演集

明朗會本部

451
38
27
始

特251
949

明朗會講演集 第六號

國史を貫く大精神 其の五

一月十八日

男爵 井上清純閣下講演

引續いて歴史を通しての日本精神に付てお話を申上げたいと思ひます。私は今日で五回目でありますが、私の話は若しも時間が許されるならば、建武中興迄お話をしたいと思つて居るのでありますが、まだ二三回重ねないと其處まで參らぬのでありますが、許されますならば、そこまで行きたい所存でありますから、豫め御承知を願ふ次第であります。大體原稿に付てお話するのはお聽きになる方ではお聽苦しいと存じますが、速記を取りて一般の會員にお示しになるといふことでありますから、此處の方ばかりに都合の好いやうにお話するよりも、全體の方に讀んで戴きたいといふことも亦考へなければならぬのでありますから、大體は草稿に依つてお話をしたいと思ふのであります。

(一) 大化改新の發源

温故知新、卽ち故を温め、新しきを知るといふことは、非常に大切なことでありまするが、此歴史の回顧と進取革新といふことは、凡庸の人では中々兩立し難いものであります。一つは終に保守退嬰に陷り、一つは頻りに新奇破壞に趨り、兩者共方向は反しながら、共に國體に副はざるものとなりますから、深く警しむべきことであります。然るに我が國史に明かに示す偉大なる精神は兩者相撞着せず歴史の回顧に依り、自己本來の使命を悟り、其本に歸ることに依りまして、其處に高く理想が掲げられ、深く現實の世相を理解し、破邪顯正の大革新が現はれて來るのであります。凡そ我國の歴史に於て大革新の例は乏しくはありませぬが、其意義に於きまして、其規模に於て近くは明治維新、遠くは大化改新に及ぶものはなからうと思ひます。就中大化の改新は明治維新よりも尙ほ一層の深刻さを持つものと思はれます。斯くの如き重大意義を持つ大化の改新は大化一朝の事業ではなく、遡れば推古天皇樣の御代に始まり、元明天皇樣の和銅三年、奈良奠都に至つて大成して居るのであります。此百二十年間を指して飛鳥時代と申すを適當とせられて居ります。

推古天皇樣の十一年聖德太子は初めて冠位十二階を御制定になりまして、臣下の尊卑の等級を定められました。それ迄は氏族の尊卑や官職は固定して居りまして、個々の官吏や臣民には等級は設けられて居らなかつたのでありますが、然るに今や天皇が臣下を直接統御し給ひ、其功勞に依つて是が品等を分ち、尊卑を明かにせられ、從來の氏姓に依らずして人材登庸の道を御開きになりました。斯くして天皇が名譽の源泉となられたのでありまして、其目指す所は明かに族長專制の打破にあり、皇室中心に全土の統一にあつたのであります。本來から申しましたならば、日本臣民は悉く天皇の皇民でありまするから、天皇樣を君と仰ぎ、天皇以外に君とし主として仰ぐ方はない筈であります。一君萬民といふものは此意味でなければならぬと思ひます。君主と仰ぐは唯上得一人のみ、絕對的臣從は唯天皇に對しそのみ誓はるべきものであります。

上代に於ける氏族制度、中世時代に於ける武家制度は國體に背いたものでありまして、就中天皇の勅を仰ぐ皇軍本來の使命を忘れ、武士間に私の主從關係が成立するが如きことは斷じてあつてはならない。私兵と皇軍とは截然として區別せらるべきものでなければなりませぬ。十七條憲法第三條に君臣を天地に譬へられまして

「承レ詔必謹。則君天レ之。則臣地レ之。天覆地載。四時順行。萬氣得レ通。地欲レ覆レ天。則致レ壞耳。是以君言臣承。上行下靡。故承レ詔必愼。不レ謹自敗。」

と仰せになつて居ります。漢文體の難しい文字で現はされて居りますが、君臣は猶ほ天地の如く、天は覆ひ地は載すもの、若し地、天を覆はんとするならば殆ど自滅に陷ると同じく、君臣の分を紊る時は必ず自ら滅亡するの外はないのであるから、愼んで臣子の分を守り、君に忠なるべきを諭された洵に懇切丁寧なる御慈敎であります。如何なる亂臣賊子も懼然として恐れ、竦然として悟らざるを得ぬのであります。又第十二條には「國に二君なく、民に兩主無し。率土の兆民悉く天皇の臣である。然るに國司、國造等猥り權力を專らにして百姓に賦斂するは不都合の至りである」と嚴かに之を戒め給ひ、第十五條には「背ㇾ私向ㇾ公。是臣之道也。」と臣道を闡明され、第十七條に「大事不ㇾ可二獨斷一。必與ㇾ衆宜論。」とて、權門勢家が私意を以て獨斷專行するの非を戒められ、强大なる氏族の擅權を排され、氏族制度の牢固たる因習を打ち破らうとされたのであります。聖德太子は特に絕對忠を以て臣民道德の核心とせられたことは、恰も敎育勅語の眼目が「扶二翼天壤無窮皇運一」にあるのと、其軌を一にして居ります。斯くして「普天の下皇土に非ざるなく、率土の濱皇臣に非ざるなし」で、生を皇國に享けたものは老若男女悉く忠良なる臣民である。大御寶であるべきといふ國民的自覺を喚起して、先づ內を固められ、而して外からの大陸文化を咀嚼し消化せしめんと遊ばされたのであります。

是が爲に憲法の外に推古天皇の二十八年、天皇記國記其他の書物を作られたのでありますが、此順序から考へても皇室中心の上に國民の自覺を表現せるものと見ることが出來るのであります。先づ天皇記をお作りになりましたが、日本の歷史といふのは天皇の御事蹟史でなければならぬからであります。斯かる大事な文献も惜しいことには、是から二十五年を距てた皇極天皇の四年には蘇我氏の滅亡と共に火に罹りまして總て燒失して了つたのでありますが、其燒け殘りの書物の中から、船史惠尺といふ人が僅かに稿本國記の一部を火中から取出して、中大兄皇子に奉献し、皇子は大改革の原動力を此國史の中から導き出されたと申すことであります。天智天皇の皇弟、天武天皇は勅して帝記等を作らせられたが、此御精神は後に繼承せられまして、古事記の撰錄となり、日本書紀の編纂となつたのであります。聖德太子の國民敎化に依りまして、內には君臣の大義が明かとなり、外には中外承夷の辨別――日本が中華で支那が外夷であります。其中外承夷の辨別もはつきりとしまして、其著しく現はれたのは大極殿に於て蘇我入鹿が誅に伏するや、蘇我氏を守らん爲に集まつて來た所の二萬餘騎の軍兵に對しまして、是が討閥に向つた所の巨勢德陀臣といふ將軍が天地開闢以來君臣の位定まれることを說いたので、叛亂兵は直に武裝を解除して退散したといふのも、太子の敎化の現はれと申すべく、大化改新が美事に成就したのも全く聖德太子の御敎に依る國民の國體觀念の發露に外ならないのであります。

斯くして聖德太子は各方面に亘り根本的の大改革を斷行しようと企てられたのでありまするが、蘇我氏のやうな强大なる閥族が存在した爲に、未だ十分に其機會が熟さない中に太子は薨じ給ひ、御一族も閥族の手に痛ましき御最後を遂げ給うたのであります。

斑鳩（イカルガ）の富の雄川の絶えばこそ
我が大君の御名忘らえめ

とは時の人巨勢ノ三杖が太子の薨去を悲しんで詠んだ歌でありますが、太子を日本文化發展史上の第一の神として仰ぐ者に取りましての永遠の讃仰であるのみならず、又彼の太子の建立に係る法隆寺に參詣する者の齊しく感得する所でありませう。

明治天皇御製

今もなほふみわけがたき深山路を
開きし人の昔をぞ思ふ

(二) 新日本の創造

當時の大陸の文化は近世西歐文化よりも一層高い精神文化を含んで居りましたから、到底二年や三年の留學では體得することは覺束かないので、太子に選ばれて隋に遣はされた留學生は短いので十一年、長きは三十三年に及んで居ります。彼等は何れも日本文化の淵源に深い信念を有すると同時に、隋唐の文化の長短共に能く研究を積みまして、それ等の人々が次から次と歸朝した時には、聖德太子は最早薨去の後であつたのであります。其最後に三十三年も留學して歸つたのは彼の有名なる南淵靖安先生でありまして、此南淵先生の南淵書といふものが遺されて居りますが、其書物の眞僞は分りませぬけれども、其書物に依つて、五・一五事件といふものが起つたといふものさへあるのであります。此人に中大兄皇子及び中臣鎌足公が師事されたのでありますから、聖德太子の御理想は南淵氏を通じまして、十分に中大兄皇子の御心に泌込んだものと拜察されます。中大兄皇子は聖德太子の事業の繼承者として其理想を追ひ、其遺策を實現せん爲に先づ第一に横暴蘇我を誅して障碍を除かれ、其後疾風迅雷の勢を以て大化の改新は斷行され、先づ唯一無二の統治權の主體を明瞭ならしむるを以て第一義とされたのであります。

大化元年に孝德天皇は群臣を大槻の樹下に召されまして天神に誓はれたのであります。卽ち天皇自ら天神地祇（アマツカミクニツカミ）に告げて曰く

「天は覆ひ地は載せ、帝道唯一なり。然るに末代澆薄にして、君臣序を失へり、皇天手を我に假し、暴逆を誅殄せり。今共に心血を瀝ぐ。自今以後君に二つの政なく、臣は朝にそ

むくことなし。若し此誓にそむかば天災し、地妖し、鬼誅し、人伐たん。皎しきこと日月の如し」

と仰せられ、肇國の大義に依つて現御神の天皇を中心とするの精神に復さんとする宏謨を示し給うたのであります。斯くして君臣の序を匡し皇道は唯一なりと宣し給ひ、君に二つの政あるなく、臣は朝にそむくことなしと誡め給うた。正に皇國の大道、天地に歴然として現はれ、燦然として輝き渡る感があります。而して斯くの如き皇道唯一の大理想を掲げられた所以のものは、今日の國情と同様に當時の社會的不安と思想的惑亂とを鎭定する方途としては是れ以外にはなかつたからであります。斯くして土地人民の私有を禁じ、元年勅を發せられまして、一切を擧げて國家に直屬せしめられました。大いに行政區劃の改定を行ひ、又始めて戸籍を作られ、班田收穫の法を立て、新たに租庸調の税法を布かれ、國民は今や直接に國家の保護と監督の下に立ち、平等に家業に從事することとなつたのであります。而も一般國民を共社會的、經濟的隷屬の窮狀より開放すると共に深く秩序を重んじ、清廉を貴び、自由平等の放埒自恣に墮するなきやう、特に注意を加へられたのは欽仰に堪へない次第であります。而して其統治の方式が獨斷專制であつたかと言へば、大化二年三月の詔に

「夫れ天地の間に君として萬民を治むることは獨り治むべからず、臣のたすけをまつ、是に由て代々の我皇祖等卿等の祖考と共に俱に治めたまひき。朕復神護を蒙りて、力めて卿等と共に治めむとおもほす」

と仰せられたのは天の安河原に神集ひに集ひ、神議かりに議り給ひたる國ぶりをお示し遊ばされたものでありまして、明治元年三月十四日の五箇條の御誓文の最初に

「一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ」

と天照大神に「うけひ」させ給うたのと、同じ御精神に出でたものと拜せられます。此「みことのりうけひ」は西洋流の民主的「君民契約」でもなく、又支那流の王道的「君臣會盟」でもないことを知らねばならない。大化改新、明治維新が民主改新でもなければ王道維新でもない、皇政復古であり、天孫降臨、神武創業の始に復ることであり、隨てそれは萬機御親政の復古であり、更に御親政の根據としての祭政一致の恢復であつた。それ故に君民共治、君民同治の端を開かん爲でもなく、偏に祖宗に承けさせられたる統治の大權を御自ら行はせ給はんが爲のものでありまして、天皇の御親政は皇族臣民の輔翼を容れ給ふことが、祖宗の御遺訓と拜せられるのでありまして、天皇の御親政と臣下の輔翼の關係を確保することが我が國ぶりであります。而も御親政の爲にする此臣下の輔翼の第一の心得は「和を以て貴し」と仰せられた如く「すめらぎ」を仰ぐ心の一筋に睦び合うて行ふことであります。萬機公論の公といふ字は天地

の公道と同じやうに、又十七條憲法第十五條の「私に背きて公に向ふは是れ臣の道なり」とあります其公といふ字と同樣に、私に對する公の義でありまして、一人に對する數人、少數に對する多數などを意味するものではないのであります。今日の多數決といふことが間違ひであります。是は明治天皇樣の誓祭の當日の御宸翰にも「相率て私見を去り、公議を採り」と仰せられ、已に前年の十二月二十二日の達にも「博く天下の公議を採り、偏黨の私なきを以て」とあるに依りましても、覗ひ知らるゝのであります。此御誓文には多數決とか輿論とかいふ意味合は更にないのであります。千萬人の多數の輿論であつても、それが單なる利己的要求であるか、一地方、一黨派、一職能のものであるならば、それは私見であり、私論であつて公論ではないのであります。一人の考でも、國家全體から考へて以て公論とすべきものもあるのであります。それ故に議會に於て多數決を以て採否を決するといふことは日本の國體には副はないのであります。大化の改新は斯くの如くにして美事に爲し遂げられ、再び天日を仰ぐことが出來たのでありまするが、其後尙ほ半世紀の間は此革新の實現と修正とに費され、文武天皇の御代大寶律令制定となり、一層日本的に引締められ、そこに新たなる日本文化が創造されたのであります。而して斯くの如き比類稀なる社會組織の大變革は、決して單なる隋唐文明の模倣に依るものではなくして、彼の偉大なる改革者達は我が國體に卽して大陸文明を開顯し、其精髓を採取し、そこに新たなる日本文化が創造せられたのであります。昭和の大御代は文武天皇の御代に照應すべき御代でありまして、明治維新の仕上げが行はれつゝあるものと考へられます。

今日日本精神が勃然として興りつゝあることは正に是が爲であります。此の大寶律令は明治時代まで政治方面を律し、又推古天皇欽定憲法は道義の方面に於て今尙ほ我が國民倫理を整調し、指導して居ります。卽ち我國に於きましては御神勅を始め、十七條の憲法と明治天皇欽定の憲法が存在して居る譯であります。

明治天皇御製

思ふこと貫かむ世をまつほどの
月日は長きものにぞありける

(三) 和を以て貴しとなす

是は非常な大切なことでありまして、他の國では國家統一に漏れる人間生活の方面があるのであります。我國はさうではない。學問でも藝術でも盡く國體に歸一する。此獨特の事情が中心となり、外來文化を開顯して行くといふ風になつて居ります。開顯と申すのは頗る難しい言葉でありますが、是は法華經の言葉で開迹顯本（カイシャクケンポン）といふのを約して開顯と申して居ります。分り

易く申したならば、聖德太子が大陸文化を採られたあの態度をさして申すのであります。即ち我國の理想としましたならば日本の文明を以て外國の文化に魂を打込むのであります。畫龍點睛といふ共點睛であります。それ故に一切の西洋文化を受入れましても、悉く大和心を以て之を別箇のものにして了ふのであります。議會制度を採りましても我國獨特の制度に變へて了ふのであります。軍艦も外國の眞似をして造つたのでありますけれども、今日は日本獨特の軍艦を造り上げたといふことが、即ち開顯といふことであります。尙ほ開顯の次に統一といふことがあります。近頃の人は揚棄、止揚といふ言葉を使ひますが、それよりもつと深い意味を持つて居りまして、聖德太子が外國文化を採用せられたやうな自主的態度を申すのであります。而して我國に於ては國家統一の中に人間生活の總ての方面の統一がある。斯くして國家生活を完うし、人間生活を完うするのであります。人間生活の統一といへば共中に萬物諸共に統一せられるといふことがなければならない。天津神の國生みといふは斯かる意味を示されたものであります。世には國家統一を政治的統一と申しまして人間生活の一部分と見る向きがあります。西洋では一般に左樣に考へられて居りまして、國家の範圍と文化の範圍とは一致するとは見ないで、文化的の方が廣いと見て居ります。玆に完全國家と不完全國家の區別が生じます。我國に於きましては一切の者が國家生活に漏れない。學問でも此意味に於て國體から獨立といふことを認めない。佐藤信淵先生は「皇道經濟の本義」と稱して天地の神意を奉行し、世界の蒼生を救濟すべき大道と道破して居ります。我國古來の經濟といふ文字は實に「邪を經め民を濟ふ」にあつたので、個人の利益を追ふといふことは經濟といふ言葉の中にはないのであります。然るに今日では經濟生活迄も國家的統一の外とさへ考へ、營利事業であるから國家に不利を圖つても咎むべきでないとする。法律も法理となつたならば國家を離れた一般の法理といふものがあると考へる。まして經濟の如きは國家と離れ、政治とは別原理のもので世界を通じて一般的のものであると見て居るのであります。斯くては政治にて經濟を統制することは、外面から力を以て統制するといふことになりまして、何れの方面に對しましても外部統一となり、國家は和を缺くことになります。即ち今の電力國家管理問題に於て國家は和を缺かうとして居る譯であります。

昭憲皇太后の御歌に

日の本の國とまさむとあき人の
きそう心ぞたからなりけり

全體の國の利益を考へる人が始めて寶であると仰せられて居ります。十七條憲法第一條に「和を以て貴しとす」と揭げられたのは意味深重のものがあります。和を内面よりの統一で、根

本に於て同じといふことにならねばなりませぬ。斯くて今日一般の生活は和を缺く狀態であります。明治天皇樣は「億兆心ヲ一ニシ」と仰せられた如く、本來我國では國家卽ち人生であるのみならず、人生と萬物とは同根であるとする。我國其ものが和であります。それ故大和の國と申すのであります。若し本當の統一國家であれば古事記日本書紀の示す如く、自然界も亦國家の內にあり、國の成立と萬物成立とは其根本を一にせねばならぬのであります。勿論學問は學問、藝術は藝術、宗教は宗教と皆それ〴〵或る違つたものがなければならないが、それにも拘らず學問の特色、藝術の特色、宗教の特色といふやうに、內面的のものが色々の方面に異つて現はれながら、而も同じやうに日本の持色を現はす所に精神的統一があるのであります。統一は特色を離るゝことは出來ない。實力ある統一の爲には特色を持たねばならない。法華經の開顯統一主義と申すのは此意味を指すのでありまして、斯くの如くして結び卽ち創造が行はれるのであります。

今日の學問は普遍性を唱へて特色を否定するから國家統一を壞はすことになります。ナチス獨逸は一切の普遍性の學理を民族的國家統一を害する有害無用の閑文字として排斥した日本の學者が、世道人心を誤たしむるは是が爲であります。君臣關係に於きましても國體が著しく現はれるとしましても、其尊い國柄が國民生活の全面に現はれて御警衛の方法なり、どの方面にも君臣關係の特色が發揮されなければならないのであります。軍艦は滿艦飾をして居つても商船は知らぬ顏をして居るやうな、そんな不統一なことであつてはならぬのであります。政治は君臣一體でも學問の方は全然個人主義であつて宜しいといふ譯はない筈であります。現にナチス獨逸では從來の個人主義を土臺にした政治學、經濟學、憲法學等一切の學問を全體主義を基調にした學問に作り直す爲に學者を總動員せしめて居る。隨てワイマル憲法は之を廢止して居るのであります。藝術方面でもやはり同じ調子の所が見えなければならない。今宗教生活や經濟生活や、學者生活や藝術生活や政治生活が、國家生活と融和せざるものを持つとするならば、――社會大衆黨は其融和しない所に煩悶があるのであります。黨生活と國家生活とが融和しない。それ等の反映せる生活形態は國家維持を困難にする。國難がそこから起つて來るのであります。各國の惱みもこゝにあり、我國の現下の問題も重點は玆にあるのであります。學問は學者に任して宜しい、經濟は個人の利害に置いて宜しいと、國家の大事を雲烟過眼するやうな爲政家は餘程考へ直さなければならない。

教育に於きましても菊池武茂起請文に、敎は愛しの語が示すやうに慈しみ育てる意味であります。個人主義教育學の唱へる自我の實現、人格完成といふが如き單なる個人の發展完成のみを目的とするものとは全く其本質を異にし、我國の道を體現する所の國民の育成でなければな

らない。我國に於ても科學的知識は彌々尊重奬勵されなければなりませぬが、それと同時に其根本に國民的信念を培養しまして、我國文化の眞の發達に資する所がなければならない。明治天皇樣は明治十二年教育大旨に此事を戒められて居るのであります。我が藝術に於きましても詩歌、管絃、書畫、聞香、茶の湯、生華、建築、彫刻、工藝、能樂、演劇等皆其窮極に於きましては我國の道より出でて道に入る。其道の現はれは一面に於きまして傳統尊重の精神となり、他面創造發展の行となる、我が藝道に見出される一つの根本的特色は沒我歸一の精神に基くことであります。習字を致すにしましても初めから手本を持たないで幾ら習つても、其人は上達することは出來ない。必ず手本に依らなければならぬのでありまするが、一度その眞髓を會得すればそこに獨自の境地が開かれて來るのであります。元來人間の精神に統一あつてこそ信念ある人格が生れて來る。統一とは眞に生きることである。別々の原理を列べて、それを綜合することがなかつたならば、生命がそれだけ稀薄になり、人格が支離滅裂となる譯であります。

今日の教育の弊害の最大なるものは人格を滅裂せしむることにあるのであります。

我が國體の顯現は我國に早くより發達した農事に最も能く之を見ることが出來ます。地物其ものの生成を人の力に依つて育成することであり、人と土とが和合して生産を營むことである。是れ我國産業の根本精神でありまして、田植歌にも其ことが現はれて居ります。それは軍事に付ても同樣でありまして荒魂(アラミタマ)は和魂(ニギミタマ)と離れずして一體の働きをなし、「まつろはぬもの」を「ことむけやはする」所に皇軍の使命があり、神武と尙き武の道がある。之を祖宗以來尙武の國體と明治天皇樣は仰せられて居ります。飛鳥朝の文化が進取的の生氣に富み、莊重雄勁にして大規模であつたのは、實に此意味の統一主義であつたからであります。スターリンのやうに無闇に權力を以て統一したならば必ず分解作用を起すことになります。大伴家持の(大伴家の歌)「海行かば水つく屍山行かば草むす屍 大君の邊にこそ死なめかへりみはせじ」の歌も斯くて出で來るのであります。「いざ子どもたはわざなせぞ天地の固めし國ぞ大和島根は」とも歌はれ、「青丹(アヲ)によし寧樂(ナラ)の京師(ミヤコ)は咲く花の薫ふが如く今盛りなり」といふ奈良朝文化も斯くて出で來つたのであります。そこには世を呪ふやうな氣持は少しも窺ふことが出來ない。中大兄皇子の奏文にも「天に双日無く國に二王無し、是故に天下を兼倂し萬民を使ふ可きは唯天皇のみ」とありまして、攝政宮自ら土地を奉還され、國土を擧げて悉く皇土とし、天下の赤子盡く皇臣とせられ給うた。是が十七條憲法の理想であり、明治維新の指導精神に外ならない。之に依り大政奉還、將軍職の辭退をお許しになりまして、斷然皇政復古を期し七百年の幕府制度を廢すると共に、藤原氏以來の攝關制度をも廢し、天皇と民との間に介在する總ての仲介的勢力を一掃し、天皇御自身の統一的國家が再現したのであります。斯くして明治維新は大化改新と其揆を一に

するものと言はなければならない。

明治天皇御製

なりはひによしかはるとも國民の
　同じ心に世を守らなむ

國民の一つ心につかふるも
　みおやの神のみめぐみにして

(四) まことの歴史

菅原道眞公の言葉に「凡そ神國一世無窮の玄妙なるは敢て窺ひ知ることは出來ない、漢土三代周禮の聖教を學ぶと雖も、革命の國風は深く思慮を加ふべきである」と申されて居ります。此言葉は九州の太宰府の石碑に記されたる菅公の箴言であります。我國にあつては維新とか革新とか申しましても、いつも復古でなければならない。外國に於きましては徹底的破壞が新たなる建設であると考へられて居りますが、日本に於きましては破壞は大禁物で、何處迄も復古維新でなくてはなりませぬ。若しも古い文物を破壞しなければ新たなる文明を興すことが出來ないといふならば、古人が心血を以て築き上げた業蹟は現代には有害無用といふことになり、吾々の祖先の築き上げた文明を無謀に破壞するといふことは、非常な罪惡と言はなければなりませぬ。舊來の文明の上に新たなる文明を積み重ねて行くのでなければ、文明は決して向上し進歩するものではないのであります。往古バビロンは偉大なる文明を持つて居りました。支那の古代にも高度の文化が開かれて居たのであります。併ながら今日之を見ることの出來ないのは革命屢々起りまして、古い文物が破壞されて了つたからであります。今昭和の大御代は外の形勢が極めて重大であるのみならず、内の問題が極めて深刻であります。而して其病源は深く遠いものがあります。斯樣な時代は國史の上に極めて稀に見る時代でありますが、玆に明にしたいと思ふのは今日の情勢に於て改革を叫ぶ者の間に革命といふ言葉が無造作に屢々濫用せられて居ることであります。是は單に言葉の問題と輕く視ることは出來ませぬ。吾人も叛亂賊子は言葉を愼まない所から出て來ると申して居る通り、深く警戒を加へなければならない。革命の本義は易教に「湯武命を革め」とある通り、所謂「湯武放伐」の時に出て居る。夏が滅びて殷が興り、殷が亡びて周が興るといふやうに、從來の王朝が亡びまして新しい權力が新しい國を創立するといふ場合に用ゐられて居ります。然るに近頃は西洋のレボリエーションに當て嵌められて用ゐられることになつた。此レボリエーションといふ言葉の意義は、佛蘭西革命以前はもつと別な意義を持つて居つたのでありますけれども、佛蘭西革命以後は全く易學になる思

想と同樣になつて居りますから、何れにしましても其本質的の意味に於きまして、國家組織の破壞、歷史傳統の否定を意味するものであることは疑ふ餘地はないのであります。メートル法の專用の如きも我が國歷史の斷紀、傳統の破壞を意味致します。是は佛蘭西革命後持ち來したものでありまして、日本が之を採用することは一種の革命となります。日本の今日の狀態を深く視察し、深刻に其原因を探つて行く時は必ずや佛蘭西大革命の問題に逢着致します。今日に於きまして佛蘭西革命の意義を再檢討して世界秘密力の所在、其目標、其手段等を爬羅剔抉する必要があります。

所が不思議なことには我國に於て殆ど總ての學者は佛蘭西革命を是認し、肯定し、之を賞讃し、佛蘭西革命家の宣傳を共儘受賣りして居る感があります。學者が書いた佛蘭西革命史は悉く讃嘆の聲を以て滿たされて居る。是は非常な間違ひであります。然るに佛蘭西の文豪ポール・ブルーヂェは次の如く申して居ります。「革命は佛蘭西の生きる力の源泉を涸らして了つた。其重大なる原因は過去の歷史と現在との間の一切の連鎖を斷ち切つて了つたからである。吾々は今全力を擧げて革命に依りて打ち滅ぼされた古代佛蘭西文化を探し出して、それと今の文明とを結び付けなければならない。此人工的に斷片的に區劃された縣の下に、自然的な又傳統的な結合に於ける昔の州を見出さなければならない。公立にして佛蘭西精神を失つた今の大學の下に地方々々に曾て存在して居つた多數の大學を見出さなければならぬ」と申して居ります。斯かる考は佛蘭西に於ては新しいものではなかつた。普佛戰爭の結果、普魯西の軍隊が巴里に迫つた時に、祖國の危難に直面して初めて佛蘭西の歷史を考へ傳統を考へ、玆に佛蘭西革命の如何に無暴であり、如何に無益であり、如何に有害であつたかを悟るに至つた。革命を超へて國家の存續することは考へられない。革命を超へて存續する歷史は考へられない。革命の本場佛蘭西が今に至つて初めて後悔臍を噬んで全力を擧げて革命を否定し、革命に依つて失はれた古代佛蘭西文化の復興を考へ初めて居るといふことでありますが、最早取返しが付かぬと思ひます。それ故にブルム內閣のやうな人民戰線の內閣が出來たのであります。今や佛蘭西は西班牙と同じやうな狀態になり、軈て蘇聯と同じやうな共產主義の國とならうとして居ります。所が普通の解釋に於きましては革命といふことは歷史の中の一つの大きな事變といふやうに考へられて居りますが、苟も歷史のある所には革命は起りませぬ。革命のある所歷史は斷絕するのであります。歷史を以て唯時間的な經過の中に起る色々の出來事といふならば犬や猫にも歷史はある筈であります。併ながら歷史の根本義から照して見ると、人格の認められない人間には歷史は存しないのであります。所謂「日に日に新たにして又日々に新たなり」といふ永遠の生命の創造發展して止まない所に人格の向上があり、歷史が存するのであります。國家の歷史とし

て考へる時、革命は個人に於ける人格の喪失であり、從來の歴史一切を否定し、從來の行動に對して全然責任を執らないのでありますから、歴史は斷絶して了ふのであります。眞の歴史は斷じて斯かる國には存在しない。先人の理想芳躅を後の人が踏襲し實現して行くといふ國、肇國の理想が今も尙ほ輝いて生々として祖先の遺風を顯彰する爲め擧國邁進するといふ國でなければ眞の歴史は存在しないのであります。眞の歴史を持つ國こそ、始めて人類文化を統整し大成する資格ある國と謂ふべきであります。北畠親房卿は神皇正統記に皇運永久に榮えますべきを說き「極りあるべからざるは我國を傳ふる寶祚なり、仰ぎ貴び奉るべきは日嗣を受け給ふすめらぎになんおはします」と述べて居ります。即ち我國以外には英國と雖も、佛蘭西と雖も眞の歴史は持つて居らぬのであります。ナポレオン時代の歴史がありましても佛蘭西全體の歴史はない。淸朝或は明朝の歴史はありましても、支那全體の一貫した歴史は存在しないのであります。眞の歴史を持つ國でなければ世界文化を統整することは出來ないのであります。今や人類文化は崩壞せんとする時に眞の歴史を持つて居る日本國の存在といふものは非常な重大なる意義を有たなければならぬことになる譯であります。

明治天皇御製

ちはやふる神の御代よりひとすじの
道をふむこそうれしかりけり

歴史の話は先づ其程度で措きまして時局の問題に少し移りたいと思ひます。此前御話したことと重複する所があらうと思ひますが、違つた方も御見えになつて居るやうでありますから、「皇國の天職と事變の背後勢力打破」といふ題でお話しようと思ひます。

皇國の天職と事變の背後勢力打破

（一）

今次の支那事變は其由つて來る所頗る遠きものがありまして、我國の肇國の理想に發現して居るのであります。明治元年に明治天皇様は國民一般に御宸翰を下されて居りますが、其御宸翰の一節に

「今般朝政一新の時に膺り天下億兆一人も其處を得ざる時は皆朕が罪なり」

と仰せになつて居ります。即ち天皇の御天職は恰も太陽が萬物を生成化育するやうに、大きな杉の木も小さな螢草も遍く光熱を與へて其生を樂しましめるといふ大慈悲の御現れ、之を昔から治しめすといふ言葉で示されて居りまして「すめらみこと」とは統べ治しめす尊い御方といふことであります。治しめすといふことは斯くの如き廣大なる慈悲の現はれを指して申すの

でありまして、普通の政治學に於ていふ政といふやうな意味よりも更に〳〵廣大なる意味を持つて居るのが、日本の治しめすといふことであります。即ち七百年の間武家の政治であつたのが、明治維新以來天皇の御親政に戻つたのでありまして、天皇の御親政といふことが即ち人々をして其處を得せしむるといふことであります。老若男女悉く其天分を完うせしむるといふのが、天皇の高き御天職であると仰せられて居ります。此天皇の御天職は軈て世界の人々をして其處を得せしむるといふことでありまして、之を昔から「漂ふ國を修理固成す」と申して居ります。世界の國々をして其處を得せしむるといふことが、皇國の天職であります。是は天照大神樣の御神勅に發して居ることでありまして

「葦原の千五百秋の瑞穂國は是れ吾が子孫の王すべき地なり、爾皇孫就いてそこに治らせさきくませ寶祚の隆えまさんこと天壤と共に窮りなかるべきものなり」

と御言葉は僅かに四十字でありますが、天地法界に書かれた最高最貴の大文字でありまして、此御神勅を別語で申上げるならば、安國と治しめすといふことであります。日本國を中心にして世界に眞箇の平和を持ち來し、人類に理想の文化を布くといふことでありまして、我國は斯くの如き洪大無邊なる天職を持つて居るのであります。吾々臣民は此洪大無邊なる御天職を翼贊し奉る爲に日本國に生を享けて居るのでありまして、單に享樂せん爲に日本に生れたのではありませぬ。此爲め日本臣民は如何に高い位置の方も、又低い所の仕事をされる方も一樣に「天壤無窮の皇運を扶翼すべし」と仰せになつて居る所以であります。手に執る鍬の先にも、又指で彈く所の算盤の球にも光が輝き、自分の仕事を通じて天壤無窮の皇運を扶翼するのであります。

（二）

抑も支那とは如何なる國であるか、リツトン報告書に對する帝國政府の意見書には「軍事費は全經費の八十パーセントに達し、爲に行政、警察、司法、敎育の費用を支辨するに足らず、親族閥、腐政、惡政を絕たず」と張家の秕政を述べて居りますが、此弊害は今些かも改まつて居りませんで、苛政虐政の連續があるばかりである。親族一門を以て政府を作り上げ、權力の歸趨を一族の繁榮に求めるなどといふことは、世界どこの文明國にもあるまいと思ひます。

今や皇軍の七千萬の大和民族は一致團結して、此漂へる支那大陸を修理固成して居るのであります。漂へる國とは何ぞや、中心主體が動搖常なき國、隨て忠孝の大義の立たざる國、隨て理想操守の無き國を指して漂ふ國といふのでありまして、斯くの如き國が氷山の如く漂つて居る間は、人類には眞正の平和も來なければ、理想の文明も打建てることは出來ないのであります。我國は此憫れむべき世界の狀態を修理固成しなければならぬ天職を持つて居ります。然る

に此輝かしい理想を持つ所の我國は中世時代に入ると同時に保元平治の大亂起り、大權は武門の手に落ち、七百年の間、武家の政治とはなつたのであります。明治天皇樣が軍人に下された所の御勅諭の中に「世の樣の遷り變りて斯くなれるは人の力もて挽き回すべきにあらずとはいひながら、且は我が國體に悖り、且は我が祖宗の御制に背き奉り、淺間しき次第なりき」と仰せになつた。共淺間しき時代が七百年の長きに及びまして、此長い間に日本人は日本精神を根柢から引拔かれて了はれた。朝政一新後に生れた吾々も長い間の餘弊を受けまして、非常に日本精神が稀薄になつて居るのであります。之を取返さなかつたならば到底大和民族の持つて居る所の眞の力といふものは出て來ない。今や澎湃として日本精神に還れといふ聲が聞えて來たのも、吾々自らが覺めなければ眞に世界を救ふことが出來ないからであります。自分自らを顧みて自分の腹の中から大和魂が稀薄になつて居るといふことを先づ第一に自覺しなければならぬのであります。殊に三百年の德川時代は驚くべき愚昧の時代でありまして、大和民族の發展は鎖國制度の爲に全然阻止されて了つて居つた。士農工商などといふものも元はなかつたのを、斯ういふ極端な階級を大和民族の中に設けて、人間の眞の天賦の力を抑止したのも德川幕府であります。此鎖國制度の爲に海外に出ることも歸ることも出來なくなつた。又出て成功した者が家族を呼寄せることも出來なかつた爲に、皆海外に於て自滅して了つた。今日南支南洋に日本人の造つた港灣や墳墓が到る處に遺つて居りますが、一人も大和民族の子孫が遺つて居らないのは苛酷なる鎖國制度の持ち來したものであります。斯くして大和民族が長い間眠つて居る間に世界はどう變つたか、世界の地圖はどう彩られて了つたか、全世界の人口の僅かに四分の一に過ぎない西洋人の爲に全世界の九分の八迄は總て奪ひ取られて了つた。而も大和民族は自由に世界に發展することすらも出來ないやうに、日本人入るべからずといふ高い札が到る所に建てられて居る。僅かに南米のブラジルだけが少しばかりの日本人を入れて居るに過ぎないのであります。

支那が歐洲人に分割されずして今日迄殘つて居るのは、日本が存在して居るお蔭であります。日本が無かつたならば、支那はずつと以前に分割されて了つた筈であります。西洋諸國は植民地のことから總て仲間喧嘩を始めまして、歐洲大戰となり五箇年の戰ひの爲に歐洲文明は根柢から崩れ、延いて人類文明は崩壞に臨み、化學戰の進歩は人類滅盡の時が迫つて居ることを思はしめます。此時に當つて大日本皇國が世界に於ける如何なる存在であるかといふことは申す迄もないことであります。

(三)

然るに玆に不思議な民族が居りまして、名附けて猶太といふのであります。西班牙の大內亂

を起したのも彼等の力、歐洲の大不安を來さしたのも彼等の力であります。其世界の秘密力を知らないで現代の問題を論議するといふことは不可能であります。猶太は如何なる民族か、日本に居る所の外人の七割迄は猶太民族であると申して居ります。此民族の爲に日本人はどの位胃潰されて居るか、二千年の昔彼等は國を追はれ、流浪しまして各國から極端な迫害を蒙つた爲に恐しいひねくれた人間になつて了つて居ります。各國に共籍をそれ〴〵持ちながら、別に目に見えない所の地下の大帝國を築き上げ、右の手には共産主義を持ち、左の手には資本主義の驚くべき金力を持ち、全く相反する所の思想を左右の手に持ち、各國を個々に擊破しつゝある勢力、之を日本は正しく見なければならないのであります。

今から九十五年前に此勢力が上海に移つたのであります。ゴルドン將軍といふ猶太人が、東印度汽船會社の腕利きの猶太人を連れまして、上海の港に移り住み揚子江一帶に權益を得まして、軈て支那の分割の爲め國際聯盟と共に計畫を進めて居つた矢先に、滿洲事變が起りまして此計畫が根柢から破れたものでありますから、國際聯盟は四十二對一を以て我國の行動に對して全面的に反對を表明して來たのであります。然るに我國は國際聯盟の壓迫にも拘らず滿洲國の建設を完成したものでありますから、彼等は心機一轉しまして、滿洲國に投資を願出たのであります。今鮎川氏が滿洲に猶太財閥の金を利用しようとして居るのであります。餘程是は注意を加へなければならぬのであります。其時は我が政府も滿洲國政府も猶太人が如何なる人間であるかといふことを知つて居りました爲め、之を排擊して了つたのであります。然るに猶太財閥は世界の通信機關を全部握つて居りますから、反日反滿の空氣を全世界に漂はして了つた。今日我國が世界的孤立の運命にあるのも、支那が排日抗日を逞しうしたのも、上海に居ります所の英系猶太財閥の力であるといふことが出來ます。倫敦タイムスでも紐育タイムスでもロイテル電報でも猶太人が持つて居るのであります。日本に來て居る所の西洋の映畫は全部猶太財閥の支配の下に置かれて居りますから、此映畫を取締らなかつたならば日本精神は復活出來ないのであります。而も猶太民族に對する論議は獨逸と日本以外では斷じて出來ない。他の國で論議したならば直ちに心臟病に罹つて死んで了ふのであります。是は知らぬ間に毒藥を飲まされて殺されるのであります。或は自動車を打つ突けられて殺されるのであります。

（四）

そこで滿洲國から排擊された英米猶太財閥は直ちに支那の幣制改革と出たのであります。今度の事變に密接不可分の關係ある所の支那の幣制改革は何であるか、支那人は政府の發行する紙幣を信用致しませぬから、今日迄銀塊を用ゐて居つた。然るに一昨年の五月上海に居所を有する猶太財閥の大御所サッスンは、倫敦に於ける極東猶太財閥の大協議會に出席の爲め歸國し

たのでありますが、サッスンの動く時には必ず世界經濟界に波動を起すと言はる位の人でありますが、日本の人は少しも是等の情勢を知らなかつたのであります。所が此人は倫敦に歸る途中、バンクーバーに上陸すると病氣になりました。そこで英國からリースロス――此人は英國政府の經濟最高顧問でありますが、此リースロスといふ猶太人を呼びまして相談した。無論亞米利加の猶太財閥とも相談したのであります。此秘密の會談の結果、對支經濟工作の大方針が決定した。大和民族の大陸への發展を阻止する計畫が定まつたのであります。其計畫を齎しましてリースロスは一端英國に歸りまして、同年九月英國政府の正式の代表者對支經濟使節といふ名前に依つて、日本にやつて來たのであります。是は丁度一昨年の十月のことであります。所が日本が之に取合はなかつたものでありますから、リースロスは直ちに支那に乘込み獨特の猶太的謀略を實行しまして、僅かの間にあの秩序なき支那の幣制を改革して了つたのであります。是は支那民衆の超國家的通貨として所持して居る銀塊を法律の力に依つて召し上げ、代りに蔣介石政權の發行に係る紙幣を流通せしめたのであります。

斯くして支那民衆は自己の紙幣財産を擁護するが爲には中央政府と生死を共にしなければならぬ立場に陷り、玆に蔣介石を通じまして英國猶太獨裁政權が着々進められたが、而も國有とした銀塊は高く倫敦市場に賣つたのでありますから、何億圓といふ莫大なる利鞘を擧げまして、其利益は英國財閥と南京政府の要人達とで山分けにして了つた。香上銀行だけでも三億弗の利益を得たといふのでありますから、全體でどの位の利益を擧げたかといふことは推察が出來よふと思ひます。此功に依りましてサッスンは南京政府から勳一等に叙せられて居ります。

第二の猶太計畫としましては支那沿岸を日本海軍に依りて封鎖せらるゝを豫想しまして、英領ビルマのマーモーといふ所から雲南貴州を經て上海に通ずる中南支那の橫斷鐵道を起工し、對支武力援助の準備を整へつゝあつたのであります。今や武器は香港とビルマ、佛領印度それからソビエットの方面から來る四方の道が開かれて居るのであります。蔣介石も何應欽も宋子文も孔祥熙も五千萬元から一億萬元以上の私財を持ち、皆外國の銀行に預けて居るのであります。蔣介石政權は支那民族の政府なるが如き形を整へて居りますが、其實質は正しく蘇聯のロボットであり、英米猶太財閥の傀儡であります。玆に日支紛爭の重大なる原因があることを確認しなければなりませぬ。上海に於ける日本系の銀行は其時千八百萬圓程の銀塊を持つて居りましたが、賣の持ち腐れで皆損失に終り世界的の大規模の經濟機構に依つて抑へられて了つた。日本人は猶太財閥の羈絆から脫しない限りに於ては、幾ら働いても皆彼等に搾取されて了ふのであります。今彼等は我國の圓を叩いて居ります。世界の弗も磅も皆猶太財閥が左右することが出來るのであります。それ故に我國は爲替相場を下げない爲に、金の現送を行つて居るので

ありますが、然るにあれ程打撃を蒙つて居る支那の紙幣は日本の紙幣より百圓に付きまして三圓程高いのであります。何故に支那の紙幣が暴落しないのか、若し事變當初に於きまして日本が積極的支那膺懲の擧に出たなら、支那財界は大混亂に陷り、英國猶太財閥は共卷添へを喰つたに違ないのでありますが、然るに日本政府が不擴大現地解決主義を執つて居る間に、彼等は天津から二百萬元、上海から二億萬圓、廣東から五千萬弗の現銀を香港に集め、蔣紙幣の保證と爲し、經濟的危地を脫し得たのみならず、支那財界の基礎を强化せしめたのであります。

（五）

それ故に蔣政權と英國財閥を切らぬ限りに於きましては、南京が落ちましても、支那事變は終局しない。支那は降伏しないのであります。英國は支那に七十億萬圓の投資をして居ります。此投資が全面的に損失に終るかどうかといふ問題に今偏れて居るのでありますが、英國は斷じて此利益を棒に振らないと考へます。亞米利加合衆國と英國とは此事變の當初から密接なる結合を持つて居ります。今亞米利加は動かないやうでありますが、亞米利加の識者の考は斷じて日本をして支那に跋扈させたくないといふ考であります。日本を抑へる力は艦隊以外にはないので、今や造艦に血眼になつて居る次第であります。御承知の通り我國と英國と亞米利加の間に於きましては一昨年の暮、十二月に倫敦條約、華盛頓條約は廢棄となつて居りますから爾來此三國の間に猛烈なる造艦競爭が行はれつゝあるのであります。一昨年英國は更に十五億磅、日本の金に換算すれば二百五十億圓の巨費を以て海陸空軍の大擴張をやつて居ります、是は五年計畫でありまして、今から五年經ちますと、此驚くべき海陸空軍は出來上り、其大部分はシンガポールに持つて來ることになつて居ります。今やシンガポールは何億圓かの金を費しまして、非常な大規模の軍港が完成したのであります。亞米利加も五六年經ちますと、是亦驚くべき艦隊が布哇の眞珠港に集中することになり、皆千九百四十二年を期して居る。更に露西亞に一千萬磅のクレヂットを與へまして浦鹽艦隊を成立せしめて居ります。即ち四五年經ちますと斯くの如き强大なる艦隊の爲に我國は包圍されなければならないといふのが、東亞の形勢であります。其艦隊を造る背後には猶太の金力が動いて居るといふことは申す迄もないことであります。今や猶太民族は世界の金の二分の一以上を持つて居ります。僅かに一千五百萬人の猶太民族が世界の全金の五割以上を持つて居るのでありまして、此力に依つてソビエット聯邦を作上げたのであります。ソビエット聯邦は猶太人の國であります。スターリンは露西亞人種でも猶太民族でもありませぬ。コーカサスの山男でありまして道德觀念も何もない冷酷な野蠻人であります。而も二百三十五萬人の官吏の中二百萬人といふものが猶太人でありますから、猶太人に依つて支配された國であるといつても差支へない。外交官は悉く猶太人と申して差支へな

い。今、日本に來て居る大使もさうであらうと思ひます。赤軍の首腦部並に參謀も悉く猶太人であります。ゲー・ペー・ウーといふのは猶太人の獨占場であります。此露西亞聯邦は二つの顔を持つ所の異面同身の怪物であります。一つの顔はソビエット聯邦政府であり、一つの顔はコミンテルンであります。コミンテルンといふのは第三インターナショナルのことで、日本では國際共産黨と申して居ります。此第三インター卽ちコミンテルンは一昨昭和十年の夏七月から八月に掛けまして、第七回目の世界大會を開いたのであります。其大會の決議が今度の支那事變に密接な關係を持つて居るのであります。其決議はどういふ決議であつたか、今迄は第二インターを敵に廻して居つたが、今後は第二インターを味方にしなければならぬ。第二インターといふのは社會主義、自由主義卽ち人民戰線の本體を指して第二インターといふのであります。敵はファッショニズムである。言換へれば伊太利と獨逸とポーランドと日本である。此爲には人民戰總を作らなければならない。斯ういふのであります。

此第二インターといふのは社會主義者、民主主義者を指して謂ふのであります。是が人民戰線の主體であります。そこで先づ歐洲に人民戰線が作られまして、佛蘭西の總選擧に働き掛け、遂に佛蘭西に人民戰線の內閣が立つたのでありまして、此間倒れたショッタン內閣、其前のブルム內閣、何れも猶太人でありまして、人民戰線の內閣であります。此人民戰線の內閣が出來ましてもコミンテルンの連中は外に立つて見て居るのであります。段々左傾して極端に左傾した時にコミンテルンの連中が乘込んで、人民戰線の內閣を打ち倒して共産主義の內閣を立てるといふのが、彼等の奥の手であるのであります。佛蘭西の國力は非常に衰退しまして、今日はソビエット聯邦か又は英國の袖の下に隱れて居らなければならぬやうな慘めな國勢となつたのであります。それ故に佛蘭西人は自分の財産を確保することが出來ないので、自分の持つて居る金は全部地面に穴を掘つて、其中に入れて居るのであります。銀行に預けることが危險で出來ないのであります。皆コミンテルンの爲にあの佛蘭西は二三等國の慘めな狀態になつて了つたのであります。更に西班牙のことを考へますならば御承知の通りあの驚くべき殘虐なる內亂も一年有半續いたのであります。今日は漸く國民戰線のフランコ將軍が西班牙の三分の二を占領するやうになりまして、我國も此政權を承認したのでありますが、國內は總て荒廢に歸して了つた。是もコミンテルンの力であります。

（六）

更に支那大陸に於きましては抗日人民戰線といふものを作つたのでありまして、北支那の事變といふものは、此抗日人民戰線が起したものであります。卽ち西安に蔣介石を監禁しまして日本に對して速かに戰爭を開始するといふことを强要した。蔣介石はスターリンの指令に對し

て此條件を容れなければ、自分の首が危いのでありますから、已むを得ず日本に對して戰ひを挑んだ。さうして現在に於ては遂に日本に席捲されまして、支那大陸は崩壞しつゝあるのであります。然らば何故にコミンテルンは支那を斯くの如き狀態に陷れんとしたのか、コミンテルンの目指す目標は支那を弱らせることは日本を弱らせることである。支那を以て日本を弱らせて、思想戰、産業戰、最後に武力戰を以て我國を打破らんと考へて居るからであります。

亞米利加合衆國も猶太人に依つて支配せられて居る國であります。ルーズベルトのブレン・トラストのモルヂンソー大藏大臣初め七名が猶太人であります。二十二名の參謀も猶太人であります。紐育といふ所は人口七百萬人といふのでありますが、共中の四百萬人は猶太人でありますから、金權の大部分は猶太民族の手中に在るといふことが分るのであります。産業といふ産業は悉く猶太人の掌中に握られて了ひ、亞米利加合衆國の國民は唯不換紙幣を持ち、金塊は大部分猶太人が握つて居るのであります。今や亞米利加合衆國は蟬の脫け殼となり、形の變つたソビエット聯邦と同じ狀態にあるのであります。

英國は如何なる國情であるか、皇室首め總て猶太民族の勢力が深く侵入して居る有様であります。此間皇室に不祥事件が起り、先帝が退位されたのでありますが、皇室も申す迄もなく猶太最負であります。前のエドワード八世は猶太人の或る重大政策に反對したことから、退位を

餘儀なくされたといふのが眞相であります。斯くの如く皇室を首め政治經濟一般にかけて如何に猶太民族の金權が動いて居るかといふことが分ります。支那の事變は悉く猶太の金權に依つて動いて居るのであつて、英國の國力を背景にしてやつて居るのであります。現時の英國の東洋政策は悉く猶太人の政策であるのであります。今の總理大臣のチェンバレンといふ人も、イーデンといふ外務大臣も悉く猶太最負の人であります。即ち排日的の政府であります。（英國は強いものと結ぶ國でありますから、我が國が強いと見れば我に協力する態度を示すであらう）

（七）

南京は攻落しましたが蔣介石政權は恐らく二年でも三年でも十年でも、戰へなくなる迄闘ふといふ積りであらう。戰爭は四圍の情勢よりしまして、寧ろ益々深刻化し擴大化して居るのであります。支那をして共未曾有の大敗にも拘らず、斯くも頑固な抗戰を爲さしめて居るのは何であらうか、韓復榘などもどうとも爲し難い有力なる背後勢力こそ蔣や汪をも超越したもので、それが今や支那をリードして居るのであります。隨て支那の長期抗日の徹底的打破の爲には、其背後に存する所の勢力の徹底的打破を必要とするのであります。現代の戰爭は武力戰だけではなくして、經濟戰、思想戰といふものが同時に戰はれて居るのであります。思想戰に於きまして露西亞と戰ひ、經濟戰に於て英米と戰ひつゝあるのであります。唯武力戰に於て南京を攻

略したからといつて、經濟戰に於て思想戰に於ての敵を制壓しない限りに於ては、今回の支那事變に凱歌を擧げることは出來ないのであります。事變第二年の性格は本式の長期戰であります。非常に複雜な困難な戰ひであるといふことがお分りになると思ひます。昨年西班牙に現はれた所の相貌が今度は支那に現はれて來たのであります。それは大きく映し出された蘇聯と英國の顔であります。勇敢なるダビテは怪物ゴライアス退治に出掛けたのでありますが、もう一つ異面同身の怪物をどう捻るか、是が支那事變の是からの仕上げであります。

そこで我々大和民族が斯くの如き大きな戰爭に果して終局の成功を收めることが出來るか否かといふことを考へなければならぬのであります。吾々大和民族は世界第一の頭腦を持つて居ります。亞米利加合衆國で長い間産業に從事した人の話でありますが、亞米利加に於きましても、加奈陀に於きましても小學校から大學に至るまで、優等生は悉く日本人に依つて占られて居りまして、何をさせても日本人が最優等であると申して居りました。微々たる蔣介石すらも現に角纒めて居つた支那の經營が大和民族に依つて出來ない道理はないのであります。今や百萬の軍隊を大陸に出兵して居る大陸軍を右手に持ち、英米の艦隊に對して能く太平洋を制海せる大海軍を左手に持ち、每年百萬人の增加率を有する大人口力を持ち、世界特絕の國體を奉じて居る日本が、亞細亞の再建が出來ない筈はないのであります。獨逸や伊太利の手を藉る迄もなく正を履んで恐れず、所信に向つて直往するに遠慮は無用であります。しかと進路を定め滿帆に風を孕んで大洋の眞つ只中に漕ぎ出したのであります。今日本にあるものは「前進」のみであります。汽車が馬車を驅逐するまで五十年間を要した。歷史的殘滓を洗ひ落し、新世界を創造する迄には尙ほ幾多の霜雪を經なければなりませぬ。其大使命達成の爲に狐疑逡巡を許さないのであります。日本は前進あるのみであります。

經濟上に於きましても何等懸念はない。年々我國は百五十億萬圓から百八十億萬圓づゝ富が殖えて居るのであります。更に我が國民が本當に目覺めまして覺悟を決めたならば、是が二百億萬圓になり、三百億萬圓になることも、さう遠い將來ではないと思ひます。軍事費は一年百億萬圓も掛りませぬ。隨て何年掛つても我國は永久に之を持續することが出來るのであります。今後の軍事行動は必ずしも戰爭を意味しないかも知れませぬ。南京攻略後は追擊戰であります。日本海の海戰の勝敗は僅かに三十分で決まつたのでありますが、猛烈果敢なる追擊戰に依つて彼のバルチック艦隊は全滅し、軈て露西亞の屈伏となつたのであります。今や南京攻略後の追擊戰の手を緩めることは千仞の功を一簣に缺くことでありまして、更に漢口重慶を制さなければなりませぬ。隴海線の西安甘肅省の蘭州、更に天山、ゴビの沙漠まで日本の皇威が及ばなければなりませぬ。南は海南島、廣東、福州等にも我が稜威が及ばなければならぬのであります。

斯くしなければ背面の力を破ることは出來ないのであります。此間日本の飛行機は蘭州に飛んで行つたのであります。蘭州は御承知の通り甘肅省といふ最も奥の省の都であります。言ひ換へれば四百餘州何處でも日本の飛行機は飛べるといふことであります。卽ち四百餘州の隅々まで日本の力に依つて治安の維持が出來るといふことであります。北支那がどう、南支那がどうと別箇に考へることは許されない。四百餘州などといつても小さな所でありまして、大日本、小支那といふやうに考へたいのであります。

日本人が思切つて支那を救つてやらなければ四億の民は共產化し、支那は國を擧げて奈落の底に落込んで了ひます。戰ふべき時に戰はざれば亡國あるのみであります。支那が崩れて了へば日本國は存在しないのであります。是は日本の興廢の分れる問題でありまして、支那の新たなる建設が出來なければ日本は太平洋の波の下に沈まなければならない。今や新たなる支那の建設に取掛つて居るのでありまして、此大事業を吾々の時代に於て爲し遂げることが出來れば、上祖先に對し、下子孫に對して初めて申譯が立つのであります。若し此仕事が出來なければ五年先、十年先に又今度のやうな大事變が起りまして、吾々の子孫は永遠に苦しまねばならぬことになります。玆に吾々は十分に肚を据えなければならぬ。此問題は唯新たなる支那を建立するといふのではない。人類文化の建直しであります。我國は其爲に存在して居るのであつて、我が大和民族の力は十分に斯くの如き大事業を完成するに足るものがあるといふことを深く自覺しなければならぬ時が來たのであります。必ずや近き將來に於て此大事業は完成することを期待致します。それには七千萬人が總起にならねばなりませぬから、各人の自覺といふことが第一の問題となるのであります。

私は今日十分意を盡すことが出來ませぬでしたが、略々私の申した意味はお分りになつたことゝ思ひますから、其お分りになつた點を隣人相傳へられて、今からの青年の前途には非常に廣大なる所の仕事が山の如くに積み重ねられてありますが、而もそれは私利私欲の爲ではなくして、人類を救ふといふ大きな天業であるといふことを深く御考を願はなければならぬのであります。私の話は此程度で終ることに致します。（拍手）

（終）

昭和十三年二月十日印刷
昭和十三年二月十五日發行

非賣品

發行兼編輯人　辻　信一
東京市芝區新橋二丁目三〇番地

印刷人　中山廣元
東京市本所區平川橋四丁目八番地

印刷所　中山印刷社
東京市本所區平川橋四丁目八番地

發行所　明朗會本部
東京市芝區新橋二ノ三〇中和ビル
電話銀座(57)一八五番　五〇一一番
振替口座東京一三八四七八番

終